

文教厚生常任委員会行政視察概要

平成30年7月30日（月）

於 八戸市議会 委員会室

午後2時30分～午後4時

1 調査の概要・説明

…………… 八戸市教育委員会 教育指導課実践支援グループ主任指導主事
「学校における読書活動の推進について」

八戸市における読書推進の取り組みについて、本市からの事前の調査事項に基づき、①子どもの読書意欲を高めるための取り組みと学校図書館の充実について、②児童生徒による読み聞かせについて、③教職員の取り組みについて、④家庭・地域等との連携について、⑤市立図書館等との連携について、⑥学校司書の配置についての6点について、市が推進している「本のまち八戸」の取り組みともあわせて、それぞれ説明を受けた。

特徴的な取り組みとしては、地域密着型教育推進事業（いわゆる八戸版コミュニティスクール）の仕組みを活用し、地域密着コーディネーターを介して学校図書館・学校司書と連携し、図書室整備・図書修理・読み聞かせ等に地域の人がボランティアとして関わっていること、また、各学校の蔵書をデータベース化し、ネットワークで連携することにより、各学校での蔵書管理を簡便にしたり、学校間の図書の相互貸借を行うシステムを構築している学校図書館ネットワーク事業などがあげられる。

さらに、「本のまち八戸」推進の取り組みの一環として行われている「マイブック推進事業」については、市内の小学校及び市内の県立特別支援学校小学部に在籍する全児童に児童1人当たり2,000円（500円券×4枚つづり）のクーポンを配布し、小学生が書店で自ら本を選び、購入する体験を通して、読書に親しむ態度の育成に資する目的で行われている事業で、クーポンの利用率は95%を超え、児童・保護者の双方において本に対する関心が高まるきっかけとなっているとのことであった。

以上の事業のほかにも多様な取り組みが行われており、学校図書館の貸出

冊数は、年々伸びている状況であった。

2 主な質疑応答

問 学校と地域をつなぐ役割を担う地域密着コーディネーターの人选はどのようにしているのか。また、報酬等は支給しているのか。

答 学校からの推薦により選任している。地域の自治会役員等ではない、学校により近い人をお願いしている。活動は無償で行ってもらっているが、保険には加入している。

問 学校司書の全校配置についての展望は。

答 全校配置が望ましいとは考えているが、少なくとも、小中学校 67 校に週 1 回は訪問できるようにするために、10 人いれば何とかできるかと考えている。

問 ブッククーポンの配布について、不登校、ひとり親家庭等についての対策はあるか。

答 不登校の児童については、担任が家まで配りに行っている。また、これまでクーポンの利用は保護者同伴でしていたが、子どもだけでも利用することができるように運用を変更した。



問 読書推進の取り組みは、学力の向上に影響を与えているか。

答 本のまちの取り組みは、学力向上を意識して行っているものではないが、学力面での向上は見られる。

以上